

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 わかたけ共済部	代表者	白藤 宗徳	法人・ 事業所 の特徴	わきあいあい わかたけは平屋建ての木材が多く使用されており、木の持つ暖かさ、やわらかさがある施設です。同一敷地内に、法人内の保育所、特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、居宅介護支援事業所の施設があり、施設間の交流、連携が行われています。事業所の様子とし、事業所名のように、利用者と一緒にわきあいあいと利用者の笑顔が見られるように過ごしてもらえることを心がけています。
事業所名	わきあいあい わかたけ	管理者	小原 真由美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	人	1 人	人	1 人	1 人	人	3 人	人	7 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	社会資源を活用しながら利用者に寄り添い聞き出した本音等をサービスにつなげていく。介護度の高い方も安心してご利用できるよう、技術面の向上に努め、臨機応変にサービスを提供できるようにする。	臨機応変に対応できるよう研修等で技術面を学ぶことが出来た。利用者に寄り添い話を聞くことで本当のニーズに職員それぞれが気づけた。	事業所と利用者が良好な関係のため、その関係性で完結してしまう。介護の不安について家族がもっていることを念頭に置き、支援に家族を巻き込んでいく。介護職は家族になれない、家族の役割を奪ってはいけない。	家族と利用者の関係性を考慮しながら家族の出来る事と事業所のサービスを柔軟に組み合わせでサービス提供していく。職員各自が現場の状況によって瞬時に判断が出来るよう知識面のスキルアップに努める。
B. 事業所のしつらえ・環境	日々の清掃、挨拶、環境整備、感染症対策の継続、季節に応じて事業所の展示物を変更し、利用者様と新しく作成して四季折々の環境づくりに取り組む。	日々の掃除やエアコンのフィルターなど月ごとに行う掃除を明確化しタスク管理することで清潔に保つことができた。展示物やレクリエーションでは職員間で案を出しながら利用者と一緒に楽しみながら四季を感じることもできた。	畑があり利用者が土を触ることが出来るのはいい環境である。どんな人が入ってくるか分からないため夜間などは防犯上鍵をかけるのは仕方ない。地域の目線で見るとどんな人がいるか分からないと入りづらさはある。	職員が働きやすいよう環境整備の継続と利用者が通いたくなるような四季に沿った展示物や畑作業のできる環境を整える。目で楽しみ体を動かす喜びを感じることが出来る環境づくりに取り組む。
C. 事業所と地域のかかわり	利用の有無に関わらず近隣の方の介護の相談などが受けられる事業所を目指していく。	利用者の知人や近隣の方とのつながりで介護の相談や見学の希望など関わりがあった。積極的に相談にのることで地域とのつながりが広がった。	利用者繋がりで関係が広がるのはいいこと。介護に対し知識がないために相談すればすぐに解決すると思われる傾向は市や地域包括支援センターの現場でも見られる。	地域との顔なじみの関係づくりを継続し介護へのファーストコンタクトの場として開けた環境の事業所を目指していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者の通所サービスでの様子や、利用者宅の訪問及び家族とのコミュニケーションなどで利用者へのサービスニーズをくみ取り、職員全員で共有しあうことで、よりよいサービス提供につなげていく。	利用者自身や家族とのコミュニケーションから本人の暮らしと地域とのつながりを大事にしながら職員間で共有することができた。	利用者の方が地域とつながるためには事業所の介護職だけでなく家族との繋がり、家族が地域とどのようにつながっているかも大事になってくる。外出等は充分に行えている様子。	利用者との日々のコミュニケーションを大事にして地域との繋がり、家族と地域との繋がりにも目を向け利用者自身が自分らしい生活を送れるようケアプランに沿ってサービス提供につなげる。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議の議題の一つとして、地域の方々の状況等を毎回取り上げ、確認、共有して職員が会議に参加する機会が増えていることで職員の意識向上を継続していく。	運営推進会議の中で地域の話と共有することで地域の方も事業所内の事をより深く共有出来た。会議の内容を職員共有することで意識を持ち業務に向き合うことができた。	取り組みやいろいろな活動報告を受け、良い取り組みは続けて欲しい。会議の内容が地域の方の言葉はどんどん現場に届けて共有してモチベーションにつなげて欲しい。同じ方向性を向いているのが見えると安心する。	運営推進会議で出た意見や地域の声は職員間で共有し取り組み活動に対するモチベーションの維持につなげる。運営について職員一人一人が意見をもてるよう会議に参加していく。
F. 事業所の防災・災害対策	災害時には地域の方々と連携が取れるよう、地域の方とはお互いに協力体制を維持していきたい。事業所の防災計画を運営推進会議等で公表し、地域の意見も取り入れながら、よりよい災害対策を考えていきます。	火災・地震・水害・日中・夜間を想定した避難訓練は継続的に行っている。その様子を運営推進会議にて共有出来ていたが、実際の地域の防災訓練は今回参加できなかった。	実際の地域の防災訓練には今回参加出来ていない点が勿体ない。地域の方から情報を待つのではなく事業所自ら収集していく。有事の際にはお互いに協力や助け合い情報の共有をするために顔なじみを作るとよいのではないかと	事業所の防災計画を運営推進会議等で共有しながら地域の防災訓練に実際に参加する。あらゆる災害に備え協力体制を維持し連携が取れるよう顔なじみの関係づくりを強化する。